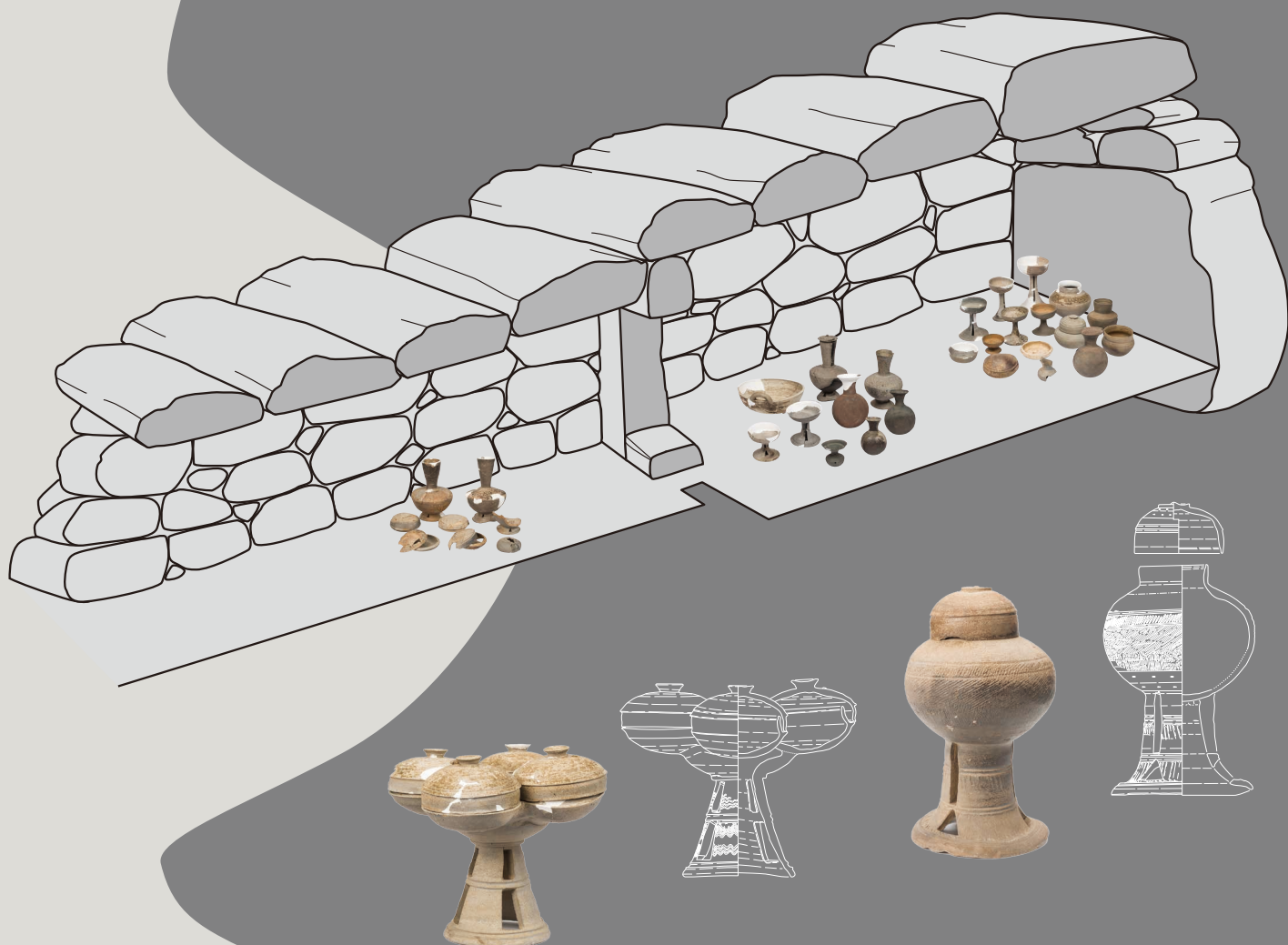


春日井市遺跡解説パンフレット その3

春日井の終末期古墳

－ 横穴式石室にみるマツリと思想 －



春日井の終末期古墳

～ 古墳築造の広まりと被葬者 ～



首長墓と終末期古墳 春日井市内には滅失したものを
含め90基以上の古墳が確認されています。4世紀代(前期
古墳)では高御堂古墳(前方後方墳・墳長約63m)、天王山
古墳(円墳・径約34m)・篠木第2号墳(円墳・径約41m)・出
川大塚古墳(円墳・径45m)、5世紀代(中期古墳)では白山
神社古墳(前方後円墳・墳長84m)、御旅所古墳(円墳・径
約35m)、6世紀代(後期古墳)では二子山古墳(前方後円墳・
墳長94m)・春日山古墳(前方後円墳・墳長72m)、南東山古
墳(円墳・径約40m)等が首長墓と想定される古墳です。

***白山神社古墳・御旅所古墳は6世紀代以降の可能性があります。**

首長墓は大規模な墳丘を有し、古墳築造に要する労力
等から複数のムラを従えた政治的支配者の墓と考えられま
す。特に、二子山古墳は6世紀代では尾張地域第2の規模
を誇り、尾張北部一帯の広大な地域を支配下に置いたと推
測されます。

一部の首長墓を除くと、多くは直径10m前後の円墳であ
り、横穴式石室を埋葬施設とする6世紀末葉から7世紀中葉
にかけての終末期古墳です。地理的にみると、段丘(鳥居
松面)の縁辺≡旧国道19号線沿線および庄内川流域に沿っ
て分布しています。

終末期古墳と被葬者 古墳は大王墓として創出された
前方後円墳を頂点に、墳丘の形・規模による階層秩序=ヤ
マト王権による政治的支配構造を表現したとされます。古
墳時代前期～後期の前半までは、古墳築造の主体者は首
長層を中心とするものでしたが、後期の後半以降、特に終
末期に至ると古墳の数は全国的に急増しており、地域の有
力者層を階層秩序の末端に取り込むことでヤマト王権の政
治的支配が浸透したと推測されます。

庄内川流域では、終末期古墳の分布と一致するようにム
ラ(集落遺跡)が確認されており、これらの古墳がムラ長・
有力農民等の墓として築かれたと推測されます。また、単
独で分布することは稀で、複数基がまとまって古墳群を形
成しており、庄内川流域での終末期古墳の増加は全国的に
も一致する傾向を示しています。

横穴式石室は墳丘外部への通路(羨道)を有しており、複
数回の埋葬(追葬)が可能なことから、夫婦・親族の合葬墓
や世代間に亘る一族の家族墓的な性格を併せもつものが
存在します。横穴式石室普及以前の竪穴式石槨・粘土槨
等の竪穴系の埋葬施設を主体部とする古墳が基本的に個
人の墓として築造されている点とは大きく異なります。

- [illegible]

A 3D perspective diagram of a traditional Japanese burial mound (kofun). The structure is built from stacked stones, forming a long, low wall. The left side is labeled '羨道' (Sando) and the right side is labeled '玄室' (Konshi).

This image displays four ancient bronze artifacts. On the left, there are three small bells, each with a circular body and a short, curved handle. They are heavily patinated with green and brown corrosion. On the right, there is a larger, rounded bronze vase or jar with a short neck and a flared rim. The vase shows significant wear and a mix of brown and green patina.

Two views of a terracotta jar. The left view shows the jar from the front, highlighting its rounded body, a wide mouth, and three small, rounded handles. The surface is decorated with a pattern of horizontal ridges. The right view shows the jar from the side, emphasizing its bulbous shape and the base, which has a small circular hole. The jar is light brown with some darker staining and a visible crack on the front.

二子山古墳出土須惠器



This image displays a collection of ancient pottery vessels, likely from the Nishizuka Kofun. The items include a large, wide-mouthed bowl with a three-legged stand, a large jar with a lid, a smaller jar with a lid, a small bowl, a small cup, and a small pot. The vessels are made of dark, weathered clay and show signs of age and wear, including cracks and discoloration. The background is a plain, light-colored surface.

A collection of ancient Chinese terracotta figurines and vessels. On the left are two light-colored, stylized horse figurines with visible wear and tear. In the center is a dark, standing human figure. To the right is a vessel with three upright, blade-like structures. In front of the horses and the human figure are several fragments of terracotta, including a large, broken piece of a horse's body and a smaller, dark fragment. The items are displayed against a plain white background.

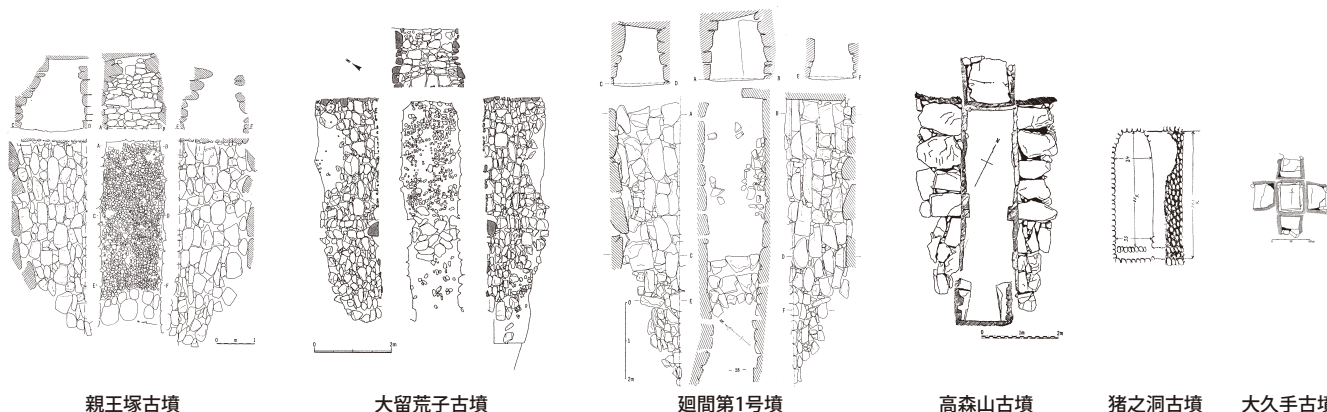
二子山古墳出土土形象埴輪(馬・人物・蓋・家)

二子山古墳出土形象埴輪(馬・人物・蓋・家)

気噴第1号墳から出土した獣面を表現する三環鈴は大陸からの舶載品と考えられ、藤山台から出土した蔵骨器は8世紀前半葉頃のもので、火葬の風習が全国的にも早い段階で伝わったことを示しています。古墳時代当時の社会的背景は推測の域を出ませんが、当地がヤマト王権あるいは渡来系の文物・思想を敏感に察知し、取り入れることを可能にした地域性を有していたことがうかがえます。

横穴式石室とマツリ

～ 春日井市内の横穴式石室 諸例 ～



親王塚古墳

大留荒子古墳

廻間第1号墳

高森山古墳

猪之洞古墳

大久手古墳

春日井市内の横穴式石室諸例 発掘調査により確認された横穴式石室は、6世紀中葉の親王塚古墳が最も古く、次いで6世紀末葉の大留荒子古墳、7世紀前葉の廻間第1号墳等が挙げられます。7世紀中葉以降の石室は小型化し、大久手古墳は8世紀後葉の火葬骨を納めた特殊な石室墳で、古墳の後の墓制として貴重な事例です。



高座山第1号墳 石室背面の盛土状況[左：側壁・右：奥壁]



高座山第1号墳 墳丘全景

高座山第1号墳 横穴式石室 高座山第1号墳は6世紀末葉の築造と推定され、天井石は残っていませんでしたが、石室・墳丘ともに良好な状態を保持しており、墳丘外護列石・墳丘内列石や、石室背面の墳丘の盛土状況等が確認されました。

石室は、地面を掘りくぼめて基底石と数段を積み上げた後、埋め戻し、一段ごとに水平方向の石積みに合わせて背後の墳丘の盛土を行う構築手順が明らかとなっています。

鳥形の造形思想

～ 鳥に託した祈り ～



南東山古墳出土 鳥鈕蓋・蓋坏[上]・鳥鈕つまみ部分拡大[下]

南東山古墳出土 鳥鈕蓋 南東山古墳は直径約40mの円墳と推定され、埋葬施設・副葬品は不明ですが、墳丘上から多種多様な須恵器(蓋坏・高坏・高坏形器台・短頸壺・甕・提瓶・広口壺・甕等)が出土しています。

中でも鳥のつまみを持つ蓋(鳥鈕蓋)3点は、有蓋脚付壺・有蓋高坏等の器種に伴う可能性が想定され、装飾須恵器の一種に分類される特殊品(葬送儀器)です。

鳥鈕蓋を伴う装飾須恵器は、5世紀末葉から7世紀中葉にかけて愛知県を中心とする東海地方に分布しています。初期のものは墳丘上で用いられたと推定されますが、横穴式石室の普及に伴い、石室内に副葬されるようになります。

葬送に関連する鳥形の思想・鳥の役割については、「死者の魂を冥界に運ぶ」、あるいはヤマトタケル白鳥伝説に代表されるように「(人は死ぬと)鳥と化して飛翔する」等、様々な想定がされます。鳥鈕蓋の思想的な解釈は今後の検討課題ですが、横穴式石室のマツリに鳥形の造形思想が反映されていることを示す重要な資料といえます。



奥壁に甕を据える行為

～ 渡来系のマツリ ～

神領第1号墳 須恵器・土師器出土状況 副葬された須恵器のほか、土師器 甕が玄室奥壁の隅を掘りくぼめ底部を埋設した状態で出土しています。甕は石室の構築過程で置かれた可能性もあり、副葬品とは異なる意味を有するものと考えられます。

市内では廻間第7号墳、近隣では白鳥4号墳・東谷山12号墳・東谷山14号墳(名古屋市内)に類例があります。初源は6世紀前半の近畿地方に認め、6世紀半ば～後半以降東海地方に広まります。出現期の近畿地方の事例は、渡来系集団が造営した古墳群と評価されることから、渡来系集団が創始した儀礼、渡来系の思想が反映したものと考えられます。



神領第1号墳横穴式石室 須恵器・土師器出土状況



台付長頸瓶・高坏出土状況[左]
土師器 甕出土状況[右]

マツリ思想と器

～ 儀器としての須恵器 器種組成の変遷 ～



親王塚古墳 薄く、均整の採れた形に高い轆轤成形技術がうかがえます。蓋坏は直径規模が最大化する時期に相当し、他の古墳のものより大型で稜線など調整が極めて明瞭である点に特徴があります。



大留荒子古墳 出土した須恵器は自然釉がはっきりとしており、焼き上がりの特徴が極めてよく似ています。同時に焼成したものが供給された可能性があり、窯業製品の流通を考える上で重要です。



高蔵寺第4号墳 石室の大部分が破壊されていたため、須恵器の出土もわずかですが、高坏・蓋坏の供膳具、短頸壺(壺蓋)の組合せが認められます。



廻間第1号墳 写真以外に提瓶2点が石室羨道部、短頸壺は玄室入口付近、蓋坏は奥壁付近で出土しています。出土地点のまとまりから2～3名の埋葬が想定されます。

儀器としての須恵器 須恵器は、4世紀末葉または5世紀初頭に朝鮮半島から伝来した焼き物で、轆轤成形による規格性と量産性、窖窯を使用した高温焼成を特徴とし、従来の野焼き焼成の土器(土師器)に比べると硬く丈夫、漏水が少ないという利点があります。尾張地域では5世紀以降、猿投窯からの安定供給を背景にして、須恵器の供膳具(坏類)や貯蔵具(壺・甕類)が普及します。

古墳時代後期から終末期にかけては、横穴式石室の普及に伴い古墳での葬送儀礼の器(儀器)としても須恵器が多く用いられるようになります。儀器専用と考えられる特殊品も製作され、東海地方では鳥鈕蓋のほか複数の坏や壺を連結した連坏・連結壺を挙げる可以做到。

儀礼の定型化に伴い、通常の器種においても坏部が縮小し脚部の長い高坏や頸部の細長い甕等、局部的な誇張や通常の数倍の大形品が登場します。また、副葬する須恵器の組合せや器種は時期ごとの変化が認められます。春日井市内での出土遺物を比べると、7世紀初め頃を境に短頸壺に代わって台付長頸瓶が登場し、壺の主要器種となります。7世紀中葉には提瓶・平瓶・甕等多様な壺類は姿を消し、高坏・蓋坏・台付長頸瓶の単純な組合せとなります。

篠木第4号墳出土四連坏



黄泉戸喫(ヨミハグイ)と食物供献儀礼 「古事記」の日本創世神話の一節に記された「黄泉国」について、横穴式石室の構造や儀礼を連想させるとの指摘があります。

国生み後亡くなった伊邪那美命に会うため、黄泉の国に入った伊邪那岐命が現世に帰るよう促すと、伊邪那美命は「悔しきかも、速く来まさずて。吾は黄泉戸喫しつ。」、つまり「黄泉国で煮炊きしたものを食べた」ため、黄泉国(あの世)の人となったと返します。

石室内に副葬された須恵器について、黄泉戸喫(黄泉国での食事)の象徴とすると、儀礼の意図としては現世との別離を宣言するものと推測されます。

須恵器の副葬は、古墳時代前～中期を通じた鏡・玉・武器・武具等の呪術的・宝器的色彩の強い副葬品とは異なる死生観に基づくもので、社会情勢の変化が葬送儀礼等に反映したものと考えられます。



高蔵寺第5号墳 数多くの須恵器のほか、金環、直刀・鉄鏃・馬具等の鉄製品、砥石の可能性のある石製品が出土しています。複数人の世代間に亘る埋葬と考えられます。



明知第1号墳 把手付の鉢は希少品で、類例は高蔵遺跡(名古屋市)で確認された古墳にあります。鉢以外の高坏・壺類の組合せも類似し、地域を超えて共通の儀礼を認める点は重要です。



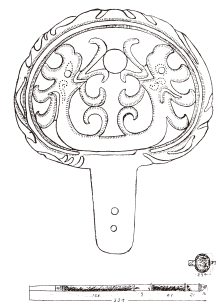
神屋第1号墳 供膳具は高坏が伴わず、蓋坏のみで構成しています。蓋坏は小型化した最終段階のものですが、蓋には稜線が明瞭に残り、供給窯である猿投窯系の特徴が認められます。



神領第1号墳 須恵器とともに出土した土師器の甕は、玄室奥壁隅を掘りくぼめ、底部を埋めた状態で出土しています。甕は石室の構築段階で置かれた可能性もあり、「甕を据え置く」行為は渡来系の思想に基づくマツリとの考えもあります。



廻間第7号墳 須恵器のほか轆(フイゴ)の羽口が出土しています。羽口は炉で実際に使用されたもので、後の時代の混入の可能性もありますが、副葬品の一部とすると、工人集団との関係や被葬者の出自・性格を推測する上で注目されます。



猪之洞古墳 昭和4年に発掘調査、翌5年に石室の測量調査が行われ、川原石積の小石室(長さ約3.3m・幅約1m)から須恵器のほか、金銅製環頭大刀が出土しています。飾大刀は儀礼的要素が強く、権力を象徴する威信財と推定され、尾張地域では4例という希少なものです。



神領第4号墳 横穴式石室は墳丘の土取り等によって大部分が破壊されていましたが、周溝埋土中から副葬品と推定される須恵器が出土しています。中でも大形の提瓶は通常の数倍以上の大きさで、儀礼専用品として製作された可能性があります。

地域の歴史・文化遺産を未来に伝える

～ 古墳の復元整備事例 大留荒子古墳・高蔵寺第3号墳 ～



大留荒子古墳出土遺物



発掘調査中の横穴式石室



横穴式石室の移設復元工事



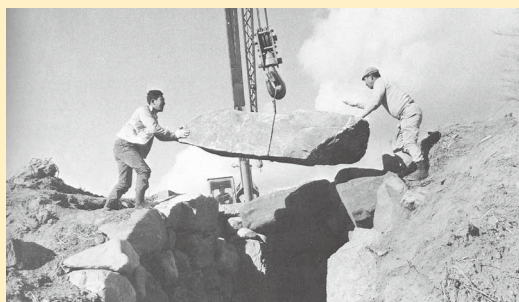
墓石の復元工事

昭和30年代後半以降、急速な市街化に伴い多くの古墳が滅失の危機にありました。こうした中、大留荒子古墳・高蔵寺第3号墳は保存され、築造当時の姿に復元整備されています。

古墳は1400年以上の時を経て今日までその姿を残し、未来へとより良い状態で継承することが、地域の歴史・文化を守る上で重要です。



復元整備された大留荒子古墳



横穴式石室天井石の復元工事



復元整備された高蔵寺第3号墳

春日井市遺跡解説パンフレットその3

春日井の終末期古墳

－ 横穴式石室にみるマツリと思想 －



編集 春日井市教育委員会

発行 平成29(2017)年3月31日

印刷 木野瀬印刷株式会社